令和７年度　第３回学校運営協議会並びに学校関係者評価委員会　議事録

令和８年２月９日（月）午後１時 30 分から
静岡県立掛川東高等学校　　第１応接室

＜次　　第＞

（1）　校長挨拶及び学校近況説明
（2）　学校関係者評価委員会
　　・学校自己評価報告
　　・質疑応答
（3）　令和８年度学校経営計画の承認
（4）　その他

＜日　　程＞

13:30～　　校長挨拶及び学校近況説明
13:40～　　学校自己評価報告
14:10～14:20　（休憩）
14:20～　　質疑応答
15:00～　　令和７年度学校経営計画の説明
15:20～　　その他

＜事前送付資料＞

・令和７年度学校経営報告書（自己評価）
・令和７年度学校関係者評価実施用紙（会議用）…桃色の印刷物
・アンケート集計結果（生徒・保護者・教職員）

＜学校運営協議会委員兼学校関係者評価委員＞

榑松（くれまつ）　一樹（かずき）	元公立高等学校長
柴田（しばた）　勝明（かつあき）	掛川市立西中学校長
花村（はなむら）　和彦（かずひこ）	自治区代表（亀の甲区）
板倉（いたくら）　弘充（ひろみち）	前ＰＴＡ会長
中山（なかやま）　朋美（ともみ）	掛西学園地域コーディネーター
松浦（まつうら）　望（のぞみ）	子育てセンターとものもり副園長

＜学校関係者評価委員＞

岩瀬（いわせ）　亮子（りょうこ）	同窓会長
鈴木（すずき）　教示（きょうじ）	ＰＴＡ会長

＜静岡県立掛川東高等学校　担当職員＞

邑田（むらた）　聡一（そういち）	校　　長
小杉（こすぎ）　友祐（ゆうすけ）	副 校 長
渡部（わたべ）　芳典（よしのり）	教　　頭
杉本（すぎもと）　仁（じん）	事 務 長

＜実施報告書＞

1. 学校生活の満足度と心理的安全性

学校生活全般に対する満足度は、生徒・保護者・教職員のいずれにおいても高い水準にある。生徒と教職員の信頼関係については、「信頼できる先生がいる」との回答が 8 割を超えている一方、残りの約 2 割の生徒に対する心理的安全性の確保や、さらなる信頼構築が継続的な課題として共有された。生徒の日常については、授業中の集中（オン）と休み時間の活気（オフ）の切り替えが適切になされているとの評価を得ている。

2. 学習活動および読書・ICT 活用の現状

・読書習慣の定着：「月 1 冊以上の読書」という成果目標に対し達成率の低さが指摘された。 目標数値の妥当性やアンケートの設問内について検討の余地がある。一方で、伝統的に継続されている。「10 分間の朝読書」は、生徒の情緒の安定と落ち着いた生活環境の構築に大きく寄与していると評価された。

・資格・検定の取得：取得率は 49.7%（目標 50%に対し概ね達成）であり、将来のキャリア形成の観点から、生徒が主体的に挑戦し続けられる環境づくりを推進する。

・ICT および AI の活用： 授業での活用は進展しているが、教職員のスキル維持のための研修が不可欠である。AI 教育に関しては、単なる利用に留まらず、AI の誤りを人間が正す「人から AI へ教える」といった高度な活用法や、依存を防ぐリテラシー教育の重要性が確認された。

3. 地域交流と社会貢献活動

中高連携による保育園でのボランティア活動や募金活動などが積極的に実施されており、地域社会から高く評価されている。 これらの活動は、生徒が将来を主体的に考える一助となっており、実際、100%の生徒が将来について主体的に考えているとの結果に繋がっている。

4. 安全管理と広報活動の強化

・交通安全：ヘルメット着用率の低さが課題としてあがった。 また、保護者の送迎マナーについても改善を求める声があることから、学校からの情報発信を増やすなど、継続的な注意喚起が必要である。

・広報： 9 月以降、X（エックス）を中心とした SNS での情報発信が急増し、保護者や外部への認知向上に大きな成果を上げている。

5. 教職員の労働環境と働き方改革

・勤務時間の適正化：週 1 回の定時退勤の定着を目指しているが、業務の多様化により実施には困難が伴っている。 今後は、管理職だけでなく主任層を巻き込んだ業務の効率化や、労働環境の「見える化」による平準化が急務である。

・アンケートの課題： 教職員アンケートの回答数が少なく（23 件）、現場の実態が十分に反映されていない懸念がある。 回答率の向上と、教職員の心身の健康への配慮が不可欠である。